

ピースウインズ・ショップから

お礼やご挨拶にも！ピースコーヒー
「春が来た！」バージョンを販売しています。

まだ風は冷たく、寒い日が続いているが…暦の上ではもう春！街を歩くと木々の芽のふくらみを感じられる今日この頃。春はもうすぐ♪ですね。

ピースウインズ・ショップでは、明るい色調のお花をアレンジして春の到来の喜びを全面に表現したピースコーヒー「春が来た！」ラベルのレギュラーコーヒーとドリップバッグ3Pセットを期間限定で販売いたします。春は別れと出会いの季節。お別れ時のお礼や、初めて出会う方へのご挨拶にぜひ、「春が来た！」ピースコーヒーをご利用ください。

ご注文は、<http://pwshop.ocnk.net/>

FAX:03-3465-2112 またはTEL:03-5738-8021まで

※ピースウインズ・ショップの収益はPWJの支援活動に活用されます。



支援のプロを、世界の現場へ

2016年度(2016.2.1~2017.1.31)のPWJ活動一覧

ガザ

紛争被害世帯の生活改善を目指し、若者に市民団体で有給職員として働いてもらう短期雇用創出事業を実施しました。紛争被害が大きかったガザ北部、カーン・ユニス、ラファ県では2015年教育分野での活動の様子



12月から2017年1月、計725人の若者が教育、医療、福祉、農業といった分野で市民活動に加わり、約4万人の地域住民が恩恵を受けました。

南スチーダン

首都ジュバ市内の避難民キャンプと周辺コミュニティに加え、ジョングレイ州ボー地域などで、トイレやシャワー室などの衛生施設整備やコレラ予防活動、安全な水の供給がありました。周辺のコミュニティや小学校では、住民から選ばれた衛生普及員や小学生向けに接触感染の予防などの研修を開催。衛生知識を地域に広め、雨季に蔓延していたコレラを予防する成果がもたらされました。

村修理した井戸を使う



ウガンダ (一面参照)

ケニア

ダーブとカクマの難民キャンプで仮設住宅を建設しました。ソマリア難民約28万人が身を寄せるダーブキャンプでは2236戸、南スチーダンを含む隣国難民15万人以上が暮らすカクマキャンプでは2669戸を建てました。各キャンプの住民たちは「狭いながらも我が家」と感じています。



日本

東日本大震災

宮城県南三陸町の現地NPOの活動をサポートする形で、地域のコミュニティ支援を続けています。2015年6月に完成した交流施設を拠点として、高齢者や定年退職した世代の住民たちに対し、陶芸や習字など様々な活動の場を提供したり、地域の仕事を紹介したりしています。



熊本地震

昨年4月、災害救助犬とレスキューチームが出動し、被災した熊本県の益城町と南阿蘇村で行方不明者の捜索にあたりました。益城町では2カ所にテント84張を設置し、ペット同伴可能な避難所を運営。夏にはエアコン完備のプレハブ80戸などを開設しました。これらに5カ月半で延べ133世帯421人、ペット155頭が避難しました。



佐賀

伝統工芸の支援を活動の柱とし、肥前びーどろ、佐賀錦などの販路開拓や商品開発を目指しています。ふるさと納税のキャンペーンを通じて工芸品の魅力をPRし、ポータルサイト「ピースクラフトSAGA」(peace-crafts.org/)を開設。県内の市民団体と連携し、各団体の活動やふるさと納税制度を紹介するイベントを東京で開きました。



アフガニスタン

日本のNGOなどと連携し、全18県の市民団体に事業運営に関する研修を実施しました。11月には地元団体のスタッフ5人を日本に招待。アフガニスタンは人権や食糧不足などの課題に直面していますが、政府の統治が脆弱なことなどから、市民団体の役割が期待されています。各団体が自力で事業を展開する力を身につけることが目的です。



ミャンマー

民族紛争で故郷を離れた避難民の帰還に備え、カレン州の43村60ヵ所で井戸や自然流下式水道の建設・修繕をしました。村人が給水施設の運営を学ぶ講習や、ポンプやエンジンなどの修理方法を習う研修には129人が参加しました。また、雨季には河川が氾濫して洪水が多く発するため、住民や行政、地元NGOを含めた早期警戒システムの構築や避難訓練などを各地で進めています。



スリランカ

展示会で組合のブランド米を紹介する組合理事



支援先の農家の協同組合が、東部州農業省主催の展示会に栄養価が高い有機伝統米を出品したり、アイスクリームなどの乳製品を販売したりしました。2軒目の精米所事業も開始し、2017年3月から本格的に稼働する予定です。組合の地道な取り組みによって認知度も高まり、収益を生む事業に成長しています。

モンゴル

親の死亡や育児放棄、貧困などで孤立した子供たちの支援を、保護施設「ベルビスト・ケアセンター(VCC)」を通じて続けています。施設には今も約40人の子供たちが暮らしており、将来自立して社会に出ていくよう教育や訓練を受けています。



VCCで生活する子供たち

ネパール

2015年の大地震で深刻な被害が出たシンドゥバルチョーク郡では、地震で壊れた給水施設の修復と、安全な住宅再建を目指した耐震技術の研修を実施しました。女性たちが自宅で伝統的な織物を製作していたバクタブル郡では、被災した自宅に代わる製作場所として、コミュニティセンターを建設。安心して作業を再開できるようになりました。



ハイチ

昨年10月に直撃したハリケーン「マシュー」を受け、家屋が全半壊した500世帯にブルーシートや毛布を、周辺地域3000世帯に手洗い用と洗濯用の石鹼を配布しました。南県サンジャン・ドゥ・スードなどでは家屋を修復するためのトタン板や釘、金槌などを1600世帯に配布。トタン板の設置方法や修理用具の使い方を伝えるワークショップも開きました。



現地スタッフ育成のため、海外からコーヒーの専門家を招き、豆の栽培方法やコーヒーの淹れ方、焙煎方法などを指導してもらいました。豆の新たな乾燥方法を農家に伝え、現地スタッフは徐々に味や品質を自分で評価できるようになっています。昨年国内で初開催された品評会ではPWJの支援で栽培されたピースコーヒーが上位を独占しました。



広島・神石高原

観光施設「神石高原ティアガルテン」の運営支援に加え、地元の特産品ショップとデリカートを併設した店「マルクトプラット」を昨年4月に始めました。観光地の帝釈峡では、地元の事業者と協力して観光のてこ入れを図るため、観光協会の事務局にスタッフを派遣。情報発信やウェブサイトの拡充などを通じてPR強化に貢献しました。



瀬戸内

特定非営利活動法人「瀬戸内アートプラットフォーム(SAPF)」と協力し、瀬戸内海の無人島・豊島を舞台としたアートと観光の活動を進めました。ドイツの現代芸術家ゲルハルト・リヒターの立体ガラス作品の展示スペースが完成し、昨年5月に一般公開を開始。愛好家や美術関係者の間で話題を呼び、海外を含め多くの見学者が訪れました。

